



より大会全国予防結核第66回

とき 平成27年2月26日、27日

ところ ホテルオークラ福岡（福岡県福岡市）

妃殿下は、26日の研鑽集会等と27日の大会式典にご臨席になりました。式典ではお言葉（下記）を述べられ、秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞者に表彰状を授与されました。



ばこと下妃宮篠秋大会全国予防結核第66回

（福岡県）平成二十七年二月二十七日

「第六十六回結核予防全国大会」がここ福岡県において開催され、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

はじめに、本日、「第十八回秩父宮妃記念結核予防功労賞」を受けられる皆さまに、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられましたご努力に対し、深く敬意を表します。

日本では、結核罹患率は毎年低下していますが、未だに年間約二十万人が新たに結核を発症しています。また、結核患者の高齢化、若い患者層における外国人の割合の増加や、大都市での罹患率が高いことなど、多様な課題があります。患者発見の遅れによる集団感染事例も発生しております。このような状況の中、日本で約四十年ぶりに結核の新しい治療薬が開発されました。こうした新たな成果も活かしながら、関係者が力を合わせて、結核対策を引き続き着実に進めていくことは、大切なことでありましょう。

昨日の研鑽集会では、「社会要因の多様化と結核」について、様々な立場からのお話を伺いました。結核罹患率を更に低下させていくために、私たちの身近にある社会的な要因について、改めて考える機会になったのではないかと思います。

一方、世界では、年間およそ九百万人が新たに結核を発症し、約百五十万人が命を落としています。その多くはアジア・アフリカ諸国に集中しており、これらの国々に対して、患者の発見や治療のための人材育成、結核を含めた保健医療システムの構築など、日本の経験を活かした協力が求められています。

結核予防会は、国の内外における結核予防など多様な取り組みに加え、東日本大震災の被災者支援に関しても、福島県外への避難者に対する健康支援活動を継続しています。また、今後の大規模な災害に備えた検討も、進めていると聞いております。災害時にも、結核予防会が被災者の健康を守るためによりよい貢献ができますよう、願っております。

本大会に参加されている皆さまが、日頃より結核予防活動に力を尽くされていることに深く感謝いたしますとともに、皆さまが健康に留意されながら、これからも、人々の健康を支えるためにご活躍くださいますことを希望し、式典に寄せる言葉といたします。

第66回結核予防全国大会を顧みて

平成27年2月26・27日の両日、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、第66回結核予防全国大会がホテルオークラ福岡で開催されました。

両日あわせて全国から1,320人の参加を得て、二日間にわたる各行事では、参加者の皆様の終始熱心な討議や研鑽活動に加えて、和やかな雰囲気の中で参加者の交流も深められ、成功裏に大会を終えることができました。以下、その概要について報告します。

－ 第1日 －

■全国支部長会議

公益財団法人結核予防会理事長 工藤翔二氏、公益財団法人福岡県結核予防会理事長 松田峻一良氏、厚生労働省健康局結核感染症課課長 井上肇氏の挨拶の後、松田理事長の議事進行の下、「結核問題と本会事業」と題して以下の講演と報告を受け、協議が行われました。

「我が国の結核対策の現状と感染症法の改正について」

厚生労働省健康局結核感染症課課長 井上 肇氏

「世界の結核の現状と課題」

(公財)結核予防会代表理事・結核研究所所長

石川 信克氏

「結核予防会75周年－業績の回顧と今後の役割－」

(公財)結核予防会評議員会会長、顧問、

結核研究所名誉所長

島尾 忠男氏

「『診療放射線技師法』の改正と残された胃透視・

乳房撮影時の医師立会い不要化の要望について」

(公財)結核予防会常務理事

竹下 隆夫氏

■全国結核予防婦人団体連絡協議会理事会、同定期社員総会

理事会では、中畔会長の議事の下、平成26年度事業報告・収支決算及び平成27年度事業計画・収支予算案等が審議され、承認されました。続いて行われた定期社員総会では、「健康の歌」斉唱の後、理事会の議案報告の審議、承認を行い閉会となりました。

■支部長午餐会

恒例の支部長午餐会は、総裁秋篠宮妃殿下のご臨席のもとに和やかに行われました。

■研鑽集会和アトラクション

研鑽集会は、「社会要因の多様化と結核」をメインテーマに、基調講演、シンポジウム、紙芝居の3部構成によって行われました。

まず基調講演では、帝京大学大学院教授の矢野栄二氏が「貧困・社会格



矢野 栄二氏

公益財団法人福岡県結核予防会

理事長 松田 峻一良



差と健康」と題して、非正規労働者の増加とそれに伴う様々な健康問題について取り上げ、貧困と格差は結核やメンタル障害など健康障害の原因になる。日本の貧困と格差は世界的にも深刻なレベルにあり、問題の解決には、格差が持ち込む分断を乗り越え、社会的な連帯が必要というメッセージをいただきました。

シンポジウム「社会要因から考える結核対策」では、岩本治也氏(福岡県保健医療介護部保健衛生課企画監)と加藤誠也氏(結核予防会結核研究所副所長)が座長を務め、4人の演者から発表がありました。

南貴博氏(福岡県結核予防会呼吸器内科部長)からは、外国出生者の結核の現状や問題点と患者発見や治療における取り組みについて紹介し、今後我が国でも外国出生者の結核対策がより重要になってくるとの報告がありました。



南 貴博氏

田尾義昭氏(国立病院機構福岡東医療センター呼吸器感染部長)からは、高齢結核患者の医療の合併症の対応、労働・居住環境がもたらす集団感染等の問題について取り上げ、早期発見・早期予防の体制整備の重要性について報告がありました。



田尾 義昭氏

財津裕一氏(福岡県北筑後保健福祉環境事務所所長)からは、高齢者施設や外国人研修生等の結核発症時に地域の保健所等がどのような対応をしているか紹介し、特に外国人の結核対策では、外国人関係団体・学校側と職員・研修生・学生側それぞれに問題点や課題があるとの報告がありました。



財津 裕一氏

三苦紀美子氏(健康を守る佐賀県婦人の会会長)からは、地元佐賀県における婦人会の活動報告と今後の取り組みについて報告がありました。



三苦 紀美子氏

続いて、座長の司会進行のもと演者全員による活発な討論が行われた

後、厚生労働省結核感染症課課長の井上肇氏から各演者発表に対する所見や国の考え方などについて発言をいただきました。この中で、格差問題に関して、従来の厚労省単独の結核対策から各省庁横断の総合的対策へと大きな転換が必要となる重要な提言というコメントがありました。

紙芝居では、三浦瑞枝氏（複十字病院看護師）のナレーションによる地獄の「結核裁判」を鑑賞した後、その後日談として、結核予防会本部・婦人会関係者が閻魔大王、結核菌、患者青井細吉の孫に扮して、寸劇を披露しました。昭和25年作成の紙芝居、今なお強いインパクトがあり深く感銘を覚えたところです。

最後に、結核研究所所長の石川信克氏が研鑽集會全体のとりまとめを行い、終了となりました。

引き続き、精華女子高等学校吹奏楽部によるアトラクションが催され、演奏と多彩な踊りを交えた演技に会場から大きな拍手が鳴り響くなど、会場全体が和やかで楽しい一時に包まれました。



アトラクション

■大会歓迎レセプション

福岡県知事、福岡市長、福岡県議会及び福岡市議会の議長を始め県内外から300人がご参加いただき、福岡県産の食材を使った料理等を囲んで交流を深めることができました。

また、総裁秋篠宮妃殿下からは、秩父宮妃記念結核予防功労賞の受賞者や研鑽集會の座長・演者等の方々、紙芝居・アトラクションの関係者、大会式典特別講演の演者等に対して、ねぎらいのお言葉をかけていただきました。

— 第2日 —

■大会式典

式典は、大会運営委員長の福岡県知事 小川洋氏及び結核予防会理事長 工藤翔二氏の挨拶で始まり、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のおことばを賜りました。

続いて、秩父宮妃記念結核予防功労賞第18回受賞者

表彰が行われ、国際協力功労賞1名、事業功労賞(団体、個人) 9名、保健看護功労賞3名に総裁から表彰状が授与されました。

議事では、福岡県保健医療介護部長 福山利昭氏が議長に、福岡県結核予防会副理事長 是久哲郎氏が副議長に選任され、議事が進められました。まず、全国支部長会議及び研鑽集會の概要報告を結核予防会理事長の工藤翔二氏が行いました。続いて、前日開催された「大会決議・宣言起草委員会」で取りまとめられた決議及び宣言文案が松田福岡県結核予防会理事長、木下福岡県結核予防婦人会会長からそれぞれ読み上げられ、いずれも満場の拍手で採択されました。(決議・宣言文は7ページ記載のとおりです。)また、次期開催県は神奈川県とすることが了承されました。



大会式典

■特別講演

「博多の祭り」と題して、漫画家で博多町家ふるさと館館長である長谷川法世氏の講演が行われました。博多の町の立地や生い立ちにも遡り、博多町人の文化や祭りがどのように出来上がっていったのか、博多どんたく隊の法被を纏った博多町人文化連盟のメンバーによる祭囃子の実演も交えて、分かりやすくお話をいただきました。



特別講演

■終わりに

本大会を成功裏に終了できましたのは、福岡県並びに結核予防会本部を始め多くの関係団体のご支援、ご協力の賜物であります。深く感謝申し上げます。

研鑽集会：「社会要因の多様化と結核」・紙芝居「結核裁判」

結核予防会結核研究所

対策支援部長 小林 典子

第66回結核予防全国大会は、伝統ある寺社や博多山笠で有名な博多区にあるホテルで行われました。まだ寒さが残る2月末の開催でしたが、太宰府天満宮の飛梅が見頃を迎え、博多の街は時折、早春のやわらかな日差しに包まれました。

今回の研鑽集会は、基調講演とシンポジウムの他、紙芝居やアトラクション等、盛り沢山の内容が用意されました。企画に携わった立場から、その概要を報告させていただきます。

世界保健機関（WHO）は近年、結核の社会要因を重要な問題として取り上げています。わが国においても社会経済的な格差は年々大きくなり、公衆衛生の様々な分野で格差社会における健康問題が議論されています。基調講演では「雇用形態の多様化と健康問題」と題して、帝京大学大学院教授 矢野栄二先生にお話しいただきました。社会全体に格差が広がっているという認識を持ち、一部の社会的弱者への対策でなく、従来の枠を超えた社会的連帯の中に最終的解決の糸口がある、との指摘は深い示唆に富むものでした。

続くシンポジウムでは、外国出生者や高齢者等が抱える社会要因が結核に及ぼす影響・問題について、福岡県結核予防会呼吸器内科部長の南 貴博先生、国立病院機構福岡東医療センター呼吸器感染部長 田尾義昭先生、福岡県北筑後保健福祉環境事務所長 財津裕一先生にご発表いただき、健康を守る佐賀県婦人の会のご報告と今後の取り組みについてお話いただきました。

総合討論では、座長の福岡県保健医療介護部保健衛生課企画監 岩本治也先生と加藤誠也結核研究所副所長の進行により、活発な討議が行われました。外国出生者の対策において、入国後早期の健康診断は早期発見の有力な手段であること、また、診療場面でタブレット端末の翻訳機能を利用して意思伝達を図るなど、現場の取り組みを興味深く聴かせていただきました。高齢者については認知症を伴う患者の対応が話題になりましたが、医療機関と保健所がDOTSカンファレンスを通して連携することにより、施設の受け入れがスムーズになった事例が紹介されました。路上生活者健診が早期発見に結びついているなど、社会要因との関連性において一歩進んだ開催地福岡の結核対策から学ぶことの多いシンポジウムでした。

休憩の後、正面スクリーンに居眠りをする閻魔大王の絵が大写しになりました。紙芝居「結核裁判」の始まりです。レトロなタッチの紙芝居は、昭和25年に一般国民向けの普及啓発教材として制作されたものです。結核予防会顧問 鳥尾忠男先生のご推薦で、今回皆様にご披露することになりました。被告は結核菌、裁判長は閻魔大王、検事は三途川のお婆さん、

弁護士は結核菌の依頼を受けた“風の神”が引き受け、それぞれの陳述が始まりました。65年前の紙芝居ですので、治療や対策は現在と異なる個所もありますが、楽しく結核について学ぶことができる教材です。裁判の結果は、「結核菌が恐るべき侵略者であることは、いまさら論を待たずして明白である。当被告が被害者の青井細吉の死因に関与することも明白である。よって、被告を有罪と判定する」と判決が下され、その後、地獄では集団健診が行われたとのことでした。

会場から大きな拍手をいただき紙芝居が終了したあと、再びスクリーンに「あれから65年」の文字が映し出されました。そして、結核予防会創立75周年の全国大会のお祝いに駆けつけた閻魔大王と結核菌太郎（有罪となった結核菌）が舞台上に登場。死んだふりをして、青井細吉の孫（青井太子）に住み着いて生き伸びてきた結核菌太郎は、その間HIV・エイズと手を組んで世界に結核高まん延国を22カ国も作ったことを自慢し、結核予防会や婦人会の努力で住みにくくなった日本を離れることを告白します。「結核死亡者が毎年2,000人では商売はあがったり」と、閻魔大王も結核菌と一緒に旅立つことになりました。現在、結核予防婦人会で活躍中の青井太子さんは「もう帰ってこんでよかよ〜」と二人(?)に手を振り、「会場の皆様、本気で結核のない世界をめざしましょう」と力強く呼びかけました。

青井太子役の木下幸子福岡県結核予防婦人会会長、閻魔大王役の竹下隆夫結核予防会常務理事、結核菌太郎と紙芝居のナレーター役の三浦瑞枝看護師（複十字病院）さんへの大きな拍手の後、石川信克結核研究所長がまとめを行い、研鑽集会は無事終了いたしました。最後に、シンポジウムで特別発言をいただいた厚生労働省結核感染症課長 井上 肇先生を始め、ご出演いただいた皆様、企画や準備において貴重なご助言とご支援をいただいた方々に心から感謝を申し上げて報告といたします。



寸劇「あれから65年」の結核菌と閻魔大王

「結核問題と本会事業」 支部長会議

全国大会初日の2月26日(木)10時～11時30分、結核予防会全国支部長会議がホテルオークラ福岡において、結核予防会支部・本部及び厚生労働省より96名の参加を得て開催された。

はじめに、本部工藤理事長、福岡県支部松田支部長、厚生労働省健康局結核感染症課井上課長から挨拶があり、開催地の福岡県支部松田支部長が議長となり「結核問題と本会事業」について協議に入った。

「我が国の結核対策の現状と感染症法の改正について」

厚生労働省 井上結核感染症課長

昨年5年ぶりに改正された感染症法の改正項目の中における結核の関わりについて説明がなされた。

また、昨年の法改正では結核に対する対応を強化し、現場の医療従事者が対応しやすい体制を整えたが、来年度は結核部会において法改正を踏まえうえでの結核に関する特定感染症予防指針の見直しを議論するとの報告がなされた。

「世界の結核の現状と課題」

結核予防会 石川代表理事

世界の結核の現状報告に続き、結核制圧のためには、自国の結核対策だけでは不十分であり、世界的に連携した取り組み、支援体制が必要であると報告された。続いて世界の結核制圧の取り組み、日本の取り組み、2015年以降の結核世界戦略(End TB)について説明がなされた。

日本の取り組みにおいては、日本が築いてきた大きな歴史的、政策的財産を閉ざさず世界に発信していく必要性が述べられ、結核予防会としては率先して世界の結核制圧を目指すために全施設・支部が協力すること、複十字シール運動を強化することが求められた。

「結核予防会75周年—業績の回顧と今後の役割」

結核予防会 島尾顧問

結核予防会75周年の歴史を、第1期～第5期に区分し、第1期～第4期において、結核予防会が時代の変遷とともにどのように歩んできたかを解説された。

また、第5期においては、結核予防会の4つの柱を挙げ、結核予防会の果たすべき役割を示された。

報告 「診療放射線技師法」の改正と残された胃透視・乳房撮影時の医師立会い不要化の要望について

結核予防会 竹下常務理事

最後に報告事項として、「診療放射線技師法」の改正と残された胃透視・乳房撮影時の医師立会い不要化の要望について、竹下常務理事より報告された。

主な内容は、①「放射線技師法」第26条改正のポイント、②透視・乳房撮影時の医師不要化問題について、③今後の検討スケジュールのポイントについて、である。

今後については、8月を目途に乳がん検診、胃がん検診等についての報告書がまとめられるので、その報告書をもとに厚生労働科学研究費補助金の特別班設置を求め、「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」改正を要望していくと報告された。

(文責：普及広報課)



厚生労働省 井上結核感染症課長

厚生労働大臣祝辞

公益財団法人結核予防会総裁、秋篠宮妃殿下のご臨席を賜り、第66回結核予防全国大会が開催されることを、心からお慶び申し上げます。

初めに、秩父宮妃記念結核予防功労賞を受賞された皆様に心からお祝い申し上げますとともに、皆様のこれまでの御尽力と御功績に対し、深く敬意を表します。

我が国の結核の患者数は、これまでの官民一体の取組が功を奏し、罹患率及び患者数ともに順調に減少してきております。

その一方で、高齢化の進展とともに、結核の新たな登録患者の半数以上は70歳以上の高齢者が占めるに至っております。また、若年層の新たな結核患者では、外国人の割合が増加しています。このように、これまでと異なる課題も生じてきており、引き続き、結核予防対策を進めていく必要があります。

厚生労働省としましては、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、結核の低まん延国になること

を目指しております。この目標を達成するため、結核の患者に対し保健所の保健師が行う直接服薬確認療法を一層進めることとしており、このため、今般の感染症法の改正により、保健所と医療機関・薬局等との連携強化を位置付けたところ です。

結核対策においては、関係者の皆様の御理解と御協力が不可欠ですので、引き続き、施策への御理解をいただくとともに、格別の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、大会の開催に御尽力いただきました福岡県と結核予防会を始めとする関係者の皆様に、心から御礼申し上げますとともに、お集まりの皆様のご健勝と今後益々の御活躍をお祈りして、私からの祝辞とさせていただきます。

平成27年2月27日

厚生労働大臣 塩崎 恭久

(代読 厚生労働事務次官 村木 厚子)

福岡県知事挨拶

本日ここに、結核予防会総裁 秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第66回結核予防全国大会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。大会が私ども福岡県で開催されますのは、昭和29年以来、約60年ぶりでございます。全国各地から、ようこそ、福岡県にお越しいただきました。心から歓迎を申し上げます。

本大会の開催に当たりまして、結核予防会をはじめ、多くの関係の皆様方に御支援、御協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

また、本日、受賞される皆様、誠におめでとうございます。皆様の長年にわたる御尽力と御功績に対しまして、心から敬意を表し、お祝い申し上げます。今回の受賞を契機とされ、一層御活躍されますことを御期待申し上げます。

さて、結核は、かつて、国民病と言われ、不治の病と恐れられておりましたが、診断技術や治療法の進歩、公衆衛生の向上、生活環境の改善などにより罹患率は急速に減少し、現在では適切な治療を行えば完治できる病気となっております。

しかしながら、国内では、毎年二万人以上の新たな結核患者が発生しており、依然として主要な感染症のひとつであります。また、高齢者や糖尿病など基礎疾患を持つ方、国際化の進展に伴う外国で生まれた方々の結核患者が増加するなど、結核を取り巻く状況は複雑化しております。

福岡県では、このような結核に関する状況の変化に対応するため、保健所を中心に、県内の市町村や医療機関、高齢者

施設など関係機関が相互に連携し、患者が発生した場合の疫学調査や接触者に対する健診、長期治療が必要な患者への服薬支援など、きめ細かな結核対策に取り組んでいるところであります。

本大会を契機に、多くの方に結核の現状や対策についての認識が深まり、結核制圧を目指して、ここ福岡から広く全国、そして世界に運動の輪を広めていくことができれば幸いです。

福岡県は、先端産業が多く、よく工業県と思われておりますが、全国14位の有数の農林水産業県でもあります。豊かな自然に育まれた海の幸、山の幸に恵まれ、それらを生かした美味しい料理も沢山ございます。県内には、70の酒蔵がある酒どころでもあります。

観光地としては、太宰府天満宮、門司港レトロ地区、柳川の川下りなどに加え、昨年放送された「軍師官兵衛」ゆかりの福岡城跡や「花子とアン」の舞台となった飯塚の伊藤伝右衛門邸なども、最近、多くの方々の関心を集めております。

皆様には、是非、この機会に、このような福岡県の食、文化、歴史を存分に堪能していただきたいと思っております。

結びに当たり、本大会を通じて、結核予防がさらに前進すること、そして、本日御出席の皆様のご健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

平成27年2月27日

福岡県知事 小川 洋

2月27日、第66回結核予防全国大会議事において、決議案を結核予防会福岡県支部松田峻一良支部長より、宣言文を福岡県結核予防婦人会木下会長から、それぞれ報告し、参加者から賛同の拍手をもって採択された。

第66回結核予防全国大会決議

平成26年5月に、結核予防会は創立75周年を迎えました。この間、官民を挙げて結核対策が進められ、平成25年の新登録患者は20,495人、罹患率は人口10万対16.1にまで減少しました。

しかし近年我が国では、社会的格差による健康問題が議論されております。高齢者、生活困窮者、不安定就労者、高まん延国出身者などの社会経済的弱者における結核罹患率は高く、さらなる対策の強化が求められております。また患者中心の医療提供のために結核病床の不採算の解消が重要であります。

一方、世界に目を向けると、結核は依然として大きな健康問題であり、2013年には約900万人が発病し、約150万人が死亡しています。特にアジア・アフリカなど開発途上国では罹患率が高いのみならず、多剤耐性やH I V合併結核等従来の課題に加え、小児結核への取り組み、人口高齢化による再燃再感染等も問題となっております。

これらに対し結核ゼロを目指した世界結核新戦略に呼応し、平成26年に策定された「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」を確実に推進し、官民挙げて世界および日本の結核制圧に向けた取り組みを行う必要があります。日本では、2020年までに結核低まん延化（罹患率人口10万対10以下）を達成すること、国際的には日本発の新しい診断技術や抗結核薬などを積極的に活用することなどが重要であります。

さらに、結核予防会の基本方針の柱である、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策にも継続的に取り組む必要があります。よって、今大会において検討の結果、次の事を決議いたします。

1.国内における結核対策としては、

- ①国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会都道府県支部においては、結核に関する正しい知識の普及啓発に努め、結核に対する意識の向上を図ること。
- ②国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会都道府県支部においては、地域特性をふまえた結核医療提供体制を確立し、実効性のある結核対策の充実に努めること。

2.結核の国際協力としては、

- ①国は、「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」に基づき、開発途上国への支援を推進するとともに、結核対策を含む保健分野に経験がある関係団体の主体的活動を支援すること。
- ②我々は、日本発の新しい診断技術や抗結核薬の有用性を積極的にアピールし、国際連携を強化することによりその普及を図り、世界の結核対策に貢献すること。

3.呼吸器疾患対策としては、

- ①我々は、国民に対する呼吸器疾患の普及啓発に努め、「健康日本21（第2次）」が掲げるCOPDの認知率向上を目指すこと。
- ②我々は、COPDの調査・研究を支援するとともに、肺機能検査を健診に導入することや、肺がん検診の推進等、呼吸器疾患の早期発見に努めること。

4.生活習慣病対策としては、

- ①国は、特定健診・特定保健指導について、生活習慣病予防における指針のもと円滑な実施の支援に努めること。
- ②国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会都道府県支部は、「結核とタバコ」の関連性を広く世間に訴え、禁煙教育に努めること。
- ③我々は、特定健診・特定保健指導の推進を国民運動にしていくため、関係機関と連携し、スマートライフプロジェクト等の普及啓発活動を支援すること。

5.複十字シール運動の推進としては、

我々は、結核予防の普及啓発や国際協力の貴重な財源となる複十字シール運動を盛り上げるため、関係者・団体への働きかけに努めること。

6.我々は、東日本大震災被災地への健康支援を継続して実施すること。

以上について、一層努力いたします。

平成27年2月27日
第66回結核予防全国大会

第66回結核予防全国大会宣言

近年我が国では、社会的格差による健康問題が議論されております。結核感染の社会要因として、高齢者、ホームレス、不安定就労者など社会経済的弱者や高まん延国出身者がハイリスクグループと考えられ、医療機関への受診や治療継続確保のための対策が求められております。

我々は、国内においては、これらの社会要因が地域に密着した問題であることを認識し、医療従事者をはじめ国民に対して結核に関する正しい知識の普及啓発を積極的に実施するとともに、地域特性をふまえた結核医療提供体制の確立を関係機関に働きかけ、実効性のある結核対策の充実に努めます。さらに、東日本大震災被災地への健康支援を継続していきます。

世界に向けては、日本が高まん延国を克服した経験を活かし、かつ、日本発の新技術を積極的に活用するよう官民挙げて働きかけます。

また、平成26年に策定された「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」を確実に実施するとともに、我が国が従来から取り組んできた開発途上国への支援の手を緩めず、結核の制圧についてはユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成へ向け総力を挙げて取り組みます。

さらに、COPD、肺がんをはじめとする呼吸器疾患対策と特定健診・特定保健指導による生活習慣病対策の推進を図り、人々が健康で明るい生活を営めるよう努力します。

以上宣言します。

平成27年2月27日
第66回結核予防全国大会